



図書館だより



トピックス

■新しいiPad と Surface が入りました！

保護者会寄付金の助成により運営しているタブレットが新しくなりました。Surface ではUSB も使えますのでレポート作成や検索に活用してください♪ iPad にはデジタル教科書アプリ搭載で動画も快適です。実習前にもぜひどうぞ！活用してみても感想や、希望もお寄せください。



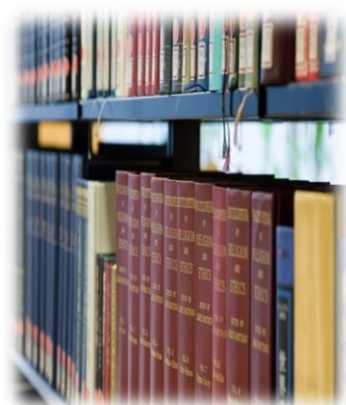
■「物語の旅」に参加してみましょう！

TBC の企画が、またまた実現しました。詳しくは下↓をご覧ください。



■館内で文書作成が可能です！館内のPC2台で編集・印刷ができます！

課題レポートや授業のプレゼンテーション資料を作成する……。図書館で調べ物をしながら資料作成をしたいけれど、自分のパソコンを持参していない……。アイデアが浮かんで急に資料をまとめてみたくなった……。そんなときでも、図書館は皆さんの学習活動を応援します♪



図書館だよりは、毎回ちょっと新しいニュースをお伝えするとともに、お薦め図書や耳よりの図書館利用方法などを紹介します。

今年は、赤十字の看護教育が始まって125年、つまり本学の創立125周年にあたります。また、戦後70年でもあるため、少しずつ看護の歴史を紹介していきます。

第6号は、精神保健看護学の小宮敬子先生にお薦めの本を初回していただきました。

「物語の旅」にでかけよう



TBC 企画です。この企画は、本学図書館内にあるものの、認知度の低い小説、有名作家が書いているけれど意外に知られていない作品、一時期話題にのぼったのに本学図書館に所属されていることが意外に知られていなさそうな書籍などを月1冊程度のペースで紹介していくものです。

➤ **紹介図書を借りた、読んだ学生の皆さんには、今年度限定で貸出書籍数の上限が「2冊プラス」されます！**

本の探し方

- ⊗ 特集コーナーの柱に紹介する1冊の本の表紙写真と紹介案内のポップが表示されています。
- ⊗ ポップを見て、興味を持ったら、図書館のどこにあるか探してみましょう！
- ⊗ 「宝物探し」のように楽しみながら参加してください。



広尾館開館スケジュール

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

	9:30-20:00		9:30-17:00
	9:30-14:00		閉館
	10:00-17:30		
	(学内者限定)		

図書館ビューティークラブ (TBC)

***私たちと一緒に活動して下さる学生さんを大募集中です！まずは見学からどうぞ♪ 興味のある方は、谷津 yatsu@redcross.ac.jp まで、ご連絡をお待ちしています ***

4月に入学した学部1年生の方が、新たに部員として一緒に活動して下さることになりました！TBCでは、本が好きな方やこうやったらもっと本に親しめるかもしれない！など、学生の皆さんの目線からさまざまな意見を考え、実現させていきたい方を募集しています！

渋谷区4大学・短期大学との相互利用提携について

4月1日から本学、聖心女子大学、青山学院女子短期大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部の図書館と相互利用提携をスタートしました。本学の学生/教職員であれば学生証/身分証明書で閲覧・複写が可能です。各HPをご確認の上、教養を深める機会に活用してはいかがでしょうか？



歴史発見！ 第2回

『大学 125 年史』を編纂するなかで、興味深かった史料をご紹介します。今年には戦後 70 年。総力体制で行われた戦争が看護に及ぼした影響について見てみましょう。

日本を占領した連合軍が残した GHQ 文書には、戦後、日赤中央病院においても物資が極端に不足していた様子が記録されています。栄養課が配給と闇市で手に入れた食材で、患者、職員、看護学生の食事を提供していましたが、一日の総カロリーは 1400kcal 程度に過ぎず、病院看護の主力として激しい勤務に耐える学生たちの体重が、数ヶ月で一人平均 4~5kg も減少という事態に。患者の食事は家族が持ち込む、あるいは病床で七輪をつかって調理するので、ベッド周辺が不衛生になったり、学生が寮の廊下で調理していたところ咎められ「出される食事が少ないからだ」と反論した事実が記録されています。時間割には農業の科目もあり、学生が空き地を耕し、教員が苗を購入、さつまいもや小麦を収穫して食糧増産に協力しました。GHQ から病院のために新品のシーツ類や産着が贈られましたが、鍵をかけて管理しないと患者が持ち帰ってしまうこともありました。



(次回に続く)

<図書館運営委員 川原>

小宮敬子先生のお薦めブック

小熊英二著、『生きて帰って来た男—ある日本兵の戦争と戦後』

岩波新書、2015年

第2次大戦の終結から 70 年、戦争の記憶を持つ人も少なくなっています。本書は、1945 年に二十歳だった若者が、戦地でいったい何を体験し、戦後をどのように生き抜いてきたのかを語った、貴重な証言をもとに書かれています。

著者の小熊英二は社会学者で、日本の近現代の歴史を社会学の手法を用いて研究しています。書く本は分厚いものが多いのですが、とても読みやすい文章を書く人です。この本は著者が、自身の父親に戦争を中心に戦前から戦後にかけての生活体験を聞き取り、それに社会科学的分析を加えたもので、いわば父と息子の共同作業による作品です。

著者の父、小熊謙二氏は 1925 年生まれ。19 歳で召集されて満州に行き、敗戦後はシベリアに 3 年半の間抑留されます。帰国後は、困窮のなかで結核を発症し、5 年間結核療養所での生活を余儀なくされました。その後は、高度成長の時代の波の中で何とか生活を切り拓き、晩年は、さまざまな市民運動にかかわってきたという人です。

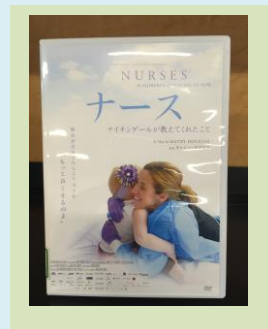
謙二氏は、抜群の記憶力の持ち主であるとともに、過酷で悲惨な境遇のなかであっても、冷静な観察力とユーモアを失わず、その淡々とした語り口には、思わず引き込まれてしまいます。「未来がまったく見えないとき、人間にとって何がいちばん大切だと思ったか」という著者の問いに、「希望だ。それがあれば、人間は生きていける」と答えたその言葉に、人生の重みを味わい尽くした人の哲学を感じました。

私の父もこの謙二氏と同年です。父もまた、終戦間際に中国に派兵された若い兵士でした。父からは断片的にしか聞けなかった体験を、本書を読むことで、日本の戦中から戦後へと至る歴史のストーリーとして思い描くことができました。無名の庶民が語る現代の歴史の中に、未来を考えるための多くのヒントがあるように思います。

文責 小宮敬子

新着図書情報

～9月の棚より～



新たに購入した DVD

9月・・・

今年度の新着図書がまだまだ少ないこともあり、棚は少しさびしい状況なのですが、その中でひとときわ目立つのがこの DVD です。

自身が看護師でもあるキャシー・ダグラス監督が、全米 10 州、100 人を超える看護師にインタビューしたドキュメンタリー映画です。小児看護、訪問看護、ICU で働く看護師から、NPO、看護教育関係者まで幅広い分野の人々が、自らの情熱と苦難、誇りと挑戦、看護について語っています。

なかなかナースの語りを聴ける機会はありそうでないので、手にとってご覧ください。

図書のリクエストもよろしくお願いします。

<図書館運営委員 古城門>



図書館の棚のこの子達も冬支度。ちょっと暖かさを感じるディスプレイになっています。

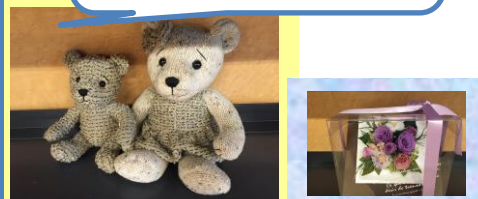


イラスト Aya Shiraki

編集・発行

日本赤十字看護大学

図書館運営委員会

